



Title: ある授業風景から

先月 30 日の読書感想文コンクール表彰式で、高橋教育長があいさつの中で話したエピソードが忘れられないので紹介します。

高橋教育長は城南小学校の学校通信『わが城南』第 6 号（7 月 22 日発行）を一同に配り、小井土校長の巻頭言「ある授業風景」を紹介しました。沖縄県の嘉手納町の教育長さんが視察に見え、5 年生の国語の授業を参観したときのこと。くだんの教育長さんが廊下に出て、何度も目頭を押さえていたというエピソードです。生徒の感性溢れる発表に感激してということだったようで、もちろんそれも素晴らしいですが、沖縄県人らしい感激家の教育長さんもいいですねえ。そういう所とはぜひ交流を続けてほしいものだと思います。

秋田県の教育、大館の教育が注目を浴びていますが、こういった体温の伝わるような話も広く伝わってほしいものです。ちなみに、『わが城南』のバックナンバーは、城南小学校のホームページで読むことができます。

#### ❖ 「むら」か「そん」か

沖縄つながりで思い出すマンガがあります。平成 11 年に 56 歳で亡くなった谷岡ヤスジの描くタロ（牛）。70～80 年代に漫画サンデーに連載されたギャグ漫画『アギャギャーマン』のキャラクターです。のどかな南国風の農村で木の下に寝そべるタロが「ソン！」とだけしゃべるコマを思い起こすと、その圧倒的な無意味さに肩から力が抜ける思いがします。

その「ソン」という言葉、当時は村（ムラ）のことをふざけてソンと言っているのかと思いつつ読んでいたのですが、後年沖縄あたりで自治体としての村をソンと読むのを知って驚いた記憶があります。今調べたら、平成の大合併で村の数は激減しており、全国で 183 しかないのですね。沖縄は 19 村あり、すべて「そん」。他にも宮崎、徳島、岡山、鳥取の各県は、数は 1～3 と少ないながらもすべて「そん」です。他には鹿児島県の 4 村中 2 村があるだけで、全国で「そん」は 28 です。

ついでに町も見てみると、全国 745 町のうち「まち」は 279、「ちょう」は 466 で、秋田県人にとっては意外なことに「ちょう」の方が多いのです。秋田県に町は 9 つありますが、「まち」が 6、「ちょう」が 3 です。「ちょう」の三種、八峰、美郷はいずれも先の大合併でできた町。それ以前はすべて「まち」でした。それにひきかえお隣の岩手県は大合併前から「ちょう」の多かった県で、2001 年にはまちが 10、ちょうが 19 でした（現在は 6 と 9）。

町の場合「ちょう」の多い岩手や北海道、「まち」の多い大分などの例外はありますが、町村全体として東日本は「まち・むら」、西日本は「ちょう・そん」が多い。以上本日のお勉強のまとめでした。

続いてお知らせを二つ。

#### ❖ 研修会「資料保存と修理の基礎」

11 月 30 日（月）午後 2 時から 4 時まで、大館市立図書館主催、秋田県立図書館の協力で、資料の管理・保存や修理の基礎を学ぶ研修会を開催します。県立図書館の専

門職員が来館し、少人数で直接指導してもらえます。

対象は、学校図書館や公共図書館関係者（教職員・ボランティアなど）、図書館や資料に興味のある方をはじめ、本が好きで補修の仕方を習ってみたい方など、学ぶ意欲のある方ならどなたでも歓迎です。参加費無料。ただし定員まで残り若干名となっています。定員に達し次第締め切りとさせていただきますので、お申し込みはどうぞお早めに。電話、中央図書館 42-2525 へどうぞ。

❖年末は貸出冊数を倍増します

市立図書館の年末年始休館は例年6日間ですが、今年度は月曜日に挟まれるため12月28日から1月4日までの8日間となります。

この間貸出しはできませんので、その前に貸出冊数の上限を倍増します。本・雑誌は通常5冊までを10冊に、紙芝居も5巻が10巻までになります。上限変更期間は12月15日（火）から27日（日）まで、貸出期間も2週間から3週間に延長します。市立図書館の中央、花矢、比内、田代の全4館とも同様です。ただし、おおとり号と市外図書館からの相互貸借資料については通常どおりの冊数・期間ですでお間違いなく。

なお、休館中も返却はできます。各館の入口に設置している返却ポストにお入れください。ただ、吹雪いている時の返却はなるべくご遠慮いただければうれしいです。  
（陽）